

ほけんニュース

9月20日～26日は動物愛護週間です

身近な動物から感染する病気と対策

園で動物と触れ合ったり、世話をしたりすることは、子どもたちにとって、命の大切さなどを学ぶ機会になります。ご家庭によってはペットを飼っていたり、触れ合い動物園などで動物と触れ合ったりする機会もあるかと思いますが、正しい接し方を知って、病気などに感染しないように気をつけましょう。

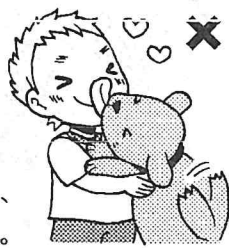
動物を飼う時は

近年では、ペットとして飼う動物と人間との距離感が近づき、家族の一員になっています。しかし、人と動物との距離が近くなるほど、動物から病気がうつる危険性も高まります。動物の特性や注意事項を知り、動物を正しく飼い、感染症にならないように注意して、人も動物もお互いによりよい状態ですごせるようにしましょう。

動物を飼う時に注意すること

過剰な触れ合いはひかえる

動物と一緒に寝たり、おふろに入ったり、自分のはしでえさを与えたり、口移しをしたりしないこと。また口の周りをなめさせない、寝室には入れないことです。



動物の身の回りを清潔にする

飼っている動物は、ブラッシングやつめ切りなどの手入れをこまめにします。また、飼育小屋や鳥かごなどは毎日掃除をして清潔に保ちます。また、ペット用の敷物や水槽の水などは細菌が繁殖しやすいので、こまめに洗います。

排泄物などはこまめに処理する






糞は病原体が増殖しやすく、糞尿が乾燥している中の病原体が空気中に漂うことがあります。マスクをし、風上から作業をしましょう。そして、こまめに処理をします。また、室内で鳥を飼育している場合には、こまめに掃除を行い、きちんと換気をしましょう。

世話や触れ合った後は手を洗う

動物と触れ合ったり、掃除や世話をしたりした後は、石けんで手をきれいに洗いましょう。



動物からうつる病気とは

| 感染症 | おもな保有動物 | 症状 ※下記のような症状が見られたら、受診します | 予防と対処法 |
|----------|--|--|---|
| パステレラ症 | イヌ、ネコなど  | ネコやイヌの口の中にある細菌で、かまれたり、ひっかかれたり、なめられたりすることで感染し、傷が赤く腫れや痛みがあります。また、せきなどの呼吸器系の症状が出ることも。乳児の場合、敗血症、髄膜炎などを起こす可能性もあります。 | 動物との過度な接触は避けます（一緒に寝る、キスをする、えさを口移しでやる）。かまれた場合は、傷口を流水で洗い、消毒します。 |
| ネコひっかき病 | ネコ  | コクシエラ菌に感染したネコに、つめでひっかかれたり、かまれたりした時に感染します。ひっかかれた傷が2週間ほどして、傷の近くのリンパ節が腫れたり、痛みが出たり、発熱したりした時には病院を受診します。 | ネコとは節度ある触れ合いを心がけ、ひっかかれないように気をつけます。また、吸血したネコノミからの感染もあるので、ノミを駆除します。 |
| Q熱 | 家畜、イヌ、ネコ、ウサギ、野生動物など  | ネコひっかき病の原因菌と近いコクシエラ菌によるものでイヌやネコの胎盤で増殖し、出産時の空気からの吸気感染や、なめられることで感染すると考えられています。急性の場合、インフルエンザ様症状が見られます。 | イヌ・ネコの排泄物や出産後の胎盤は速やかに処理することが大切です。また子どもたちを糞があるところなどで、遊ばせないように注意します。 |
| イヌ・ネコ回虫症 | イヌ、ネコなど  | イヌ回虫、ネコ回虫は、それぞれイヌやネコの寄生虫です。感染すると内臓や目などに症状があらわれ、肺の場合、せきや胸痛、呼吸困難などが、肝臓では腹痛、発熱、倦怠感などが見られます。目の場合は眼痛、飛蚊症などが見られます。 | 砂場などで、回虫に感染する恐れがあるため、砂遊びをした後は、石けんでていねいに手を洗います。また、遊んでいる時に手を口元にもっていかないようにします。 |
| オウム病 | インコ、オウム、ハトなどの鳥類  | 鳥類の糞に含まれる菌を吸い込んだり、口移しでえさを与えたりすることで感染します。突然の発熱(38℃以上)で発症し、せきやたんをともしません。倦怠感、食欲不振、関節痛など、インフルエンザ様の症状があらわれます。 | インコやオウムなどに口移しでえさを与えないこと。ケージ内の羽根や糞はこまめに掃除します。鳥の世話や掃除をする時は、換気をします。 |